

魚沼市人口ビジョン【2026】（概要版）

計画の目的と対象期間

◆目的

今後も人口減少が予測される中で、将来の新しい人口展望を明らかにし、本市が目指すべき将来の方向性を示すため、「魚沼市人口ビジョン」を改訂します。

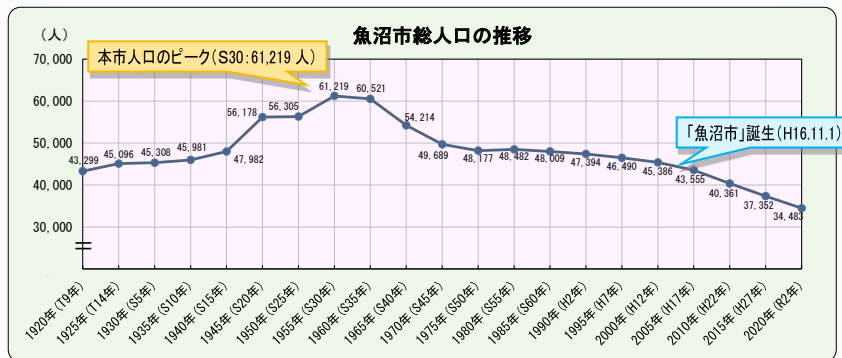
◆対象期間

2060(令和42)年までとし、それまでの5年ごとの人口の推移を示します。

魚沼市の人口の現状

◆総人口の推移

本市の人口は、1955(昭和30)年の61,219人をピークに減少に転じ、その後も減少傾向が続いています。特に、近年における減少が著しく、2010(平成22)年から2020(令和2)年までの10年間で5,878人、率にして約15%減少しています。



資料:国勢調査(総務省)

◆年齢3区分別人口の推移

年少人口(0~14歳)及び生産年齢人口(15~64歳)の割合が減少する一方で、老年人口(65歳以上)の割合は年々増加しており、2020(令和2)年は、総人口の37.6%を占め、新潟県(32.8%)及び全国平均(28.8%)を大きく上回っています。

◆自然増減、社会増減の推移

自然動態については、1999(平成11)年以降、自然減が続いており、近年は400~450人/年程度の自然減となっています。社会動態は、転出数が転入数を上回る社会減が続いており、近年は200人/年程度の社会減となっています。

将来の人口減少が地域社会に与える影響

- ◎**地域経済・産業への影響**として、地域産業の担い手不足、空き店舗の増加、商店街の空洞化等が進行し、地域経済社会の縮小につながるおそれがあります。
- ◎**市民生活への影響**として、地域のコミュニティ機能の低下による高齢者の孤独・孤立の深刻化や公共交通機関の減便・撤退とそれに伴う高齢者等交通弱者への影響が懸念されます。
- ◎**教育・地域文化への影響**として、児童・生徒数の減少による教育活動等への影響や地域の伝統文化の後継者不足による地域文化の衰退が懸念されます。
- ◎**行財政運営への影響**として、市税収入の減少や医療・介護関係費の増加、公共施設・社会資本の維持管理の負担増等、市の財政運営への影響が懸念されます。

人口に関する将来展望

《人口推計》

このままの傾向が続けば、本市の人口は・・・

2050(令和32)年には18,400人、2060(令和42)年には14,200人まで減少

(国立社会保障・人口問題研究所の推計値)



《目指すべき将来の方向性》

将来にわたって活力ある魚沼市を維持するため、本市が目指すべき将来の方向性を次のように定めます。

- ① 魚沼市への人の流れと魅力ある仕事をつくり、暮らし続けられるまちを目指す
- ② 安心して結婚し、子どもを産み育てられるまちを目指す
- ③ 人口減少・超高齢社会に適応したまちを目指す



《魚沼市の将来目標人口》

【自然動態】

合計特殊出生率が段階的に向上し、2050(令和32)年に2.07(人口置換水準)に到達

【社会動態】

経済対策や子育て支援等の施策効果を見込み、20歳から49歳までの社会減を段階的に改善し、2050(令和32)年に50%緩和



【魚沼市の目標人口の推移】

